

murakami haruki

村上春樹

u n d e r g r o u n d

アンダーグラウンド

村上春樹

工業学院図書館

蔵書章

u n d e r g r o u n d

アンダーグラウンド

アンダーグラウンド

一九九七年三月二〇日 第一刷発行

著者——村上春樹

むらかみはるき

©Haruki Murakami 1997, Printed in Japan



発行者——野間佐和子

発行所——株式会社講談社

東京都文京区音羽二—二十一 郵便番号一—二—〇一

電話

出版部(〇三)五三九五—三五〇四
販売部(〇三)五三九五—三六二二
製作部(〇三)五三九五—三六一五

印刷所——株式会社精興社 製本所——黒柳製本株式会社

定価はカバーに表示してあります。

本書の無断複写(コピー)は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

落丁本・乱丁本は、小社書籍製作部あてにお送りください。
送料小社負担にてお取り替えいたします。

なお、この本についてのお問い合わせは文芸局文芸図書第一出版部あてにお願いいたします。

ISBN4-06-208575-5 (文1)

アンダーグラウンド

目次

「はじめに」
13

千代田線

和泉きよか
36

湯浅 勝
48

宮田 実
61

豊田利明
68

高月智子
84

井筒光輝
93

風口 綾
101

園 秀樹
108

精神科医
中野幹三
116

丸ノ内線(荻窪行き)

有馬光男

131

大橋賢二(1)

144

大橋賢二(2)

156

稲川宗一

162

西村住夫

168

坂田功一

178

明石達夫

185

明石志津子

202

弁護士 中村裕二

219

丸ノ内線(池袋行き/折り返し)

駒田晋太郎

237

233

日比谷線(中目黒発)

医師
柳澤信夫
344

中嶋克之
335

武田雄介
326

飯塚陽子
317

島田三郎
309

マイケル・ケネディー
293

石野貢三
283

菅崎廣重
272

267

医師
斉藤 徹
255

中山郁子
245

日比谷線(北千住発中目黒行き)

内海哲二	465
時田純夫	458
平山慎子*	443
三上雅之	438
松本利男*	426
片山博視	417
吉秋満	401
牧田晃一郎	390
山崎憲一	376
市場孝典	368
平中敦*	360
	353

寺島 登 474

橋中安治 481

奥山正則 489

玉田道明 496

長浜 弘 505

宮崎誠治 511

石原 孝 * 522

早見利光 533

尾形直之 545

光野 充 556

片桐武夫 568

仲田 靖 577

伊藤 正 586

「目じるしのない悪夢」
685

和田嘉子
661

和田吉良・早苗
646

杉本悦子
637

石倉啓一
626

大沼吉雄
617

金子晃久
607

初島誠人
600

安斉邦衛
594

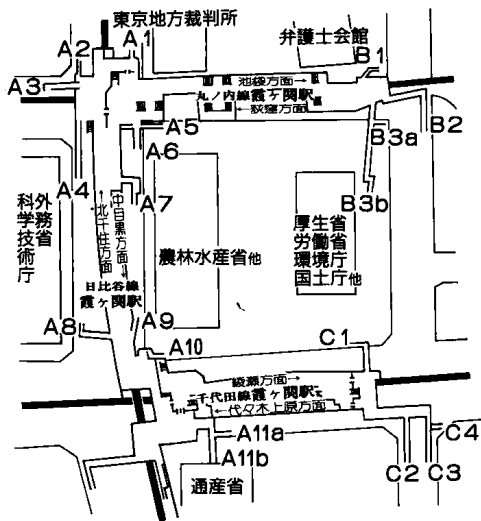
装幀——川上成夫

カバー写真——稲越功一

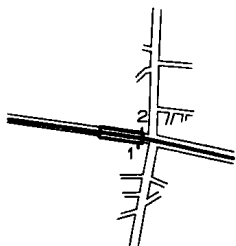
本文デザイン——こやまたかこ

アンダーグラウンド

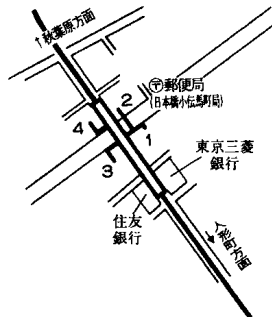
霞ヶ関駅



中野坂上駅



小伝馬町駅



「はじめに」

村上春樹

ある日の午後、たまたまテーブルの上にあったその雑誌を手に取り、ばらばらとページを繰ってみた。いくつかの記事を流し読みし、それから投書欄に掲載されていた読者の手紙にひとつひとつ目を通してみた。どうしてそんなことをしたのか、よく思い出せない。たぶんちょっとした気まぐれだったのだろう。あるいはよほど暇だったのかもしれない。女性誌を手取ることも、また投書欄を読むことも、私にとってはけっこう珍しいことだから。

手紙は、地下鉄サリン事件のために職を失った夫を持つ、一人の女性によって書かれていた。彼女の夫は会社に通勤している途中で運悪くサリン事件に遭遇した。倒れて病院に運び込まれ、数日後に退院はできたものの、不幸にも後遺症が残り、思うように仕事をするのができなくなった。最初のうちはまだ良かったのだけれど、事件後時間が経つと、上司や同僚がちくちくと嫌みを言うようになった。夫はそのような冷たい環境に耐えきれずに、ほとんど追い出されるようになかった。夫はそんな仕事を辞めた。

雑誌がいま手元に見つからないので、正確な文章までは思い出せないけれど、だいたいそういう内容だったと思う。